

自己効力感・知的好奇心の育成

(1) 自己効力感・知的好奇心の育成について

下関市の教育理念を実現するため、「自己効力感・知的好奇心」の育成を掲げています。自分の可能性を信じ、夢に向かって粘り強く挑戦するための土台となるのは、自己効力感や知的好奇心といった「見えない学力」です。日々の授業の中で、達成感（分かった、できた）を実感させることは、課題を乗り越える力となり、「もっと学びたい」といった知的好奇心の高まりへとつながります。

(2) 下関市の状況【児童生徒質問紙を活用した「見えない学力」の分析】

【学習意欲】の観点から ⇒ 学習に前向きに取り組む姿

※数字は「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」の合計（上段：下関市小学校 下段：下関市中学校）

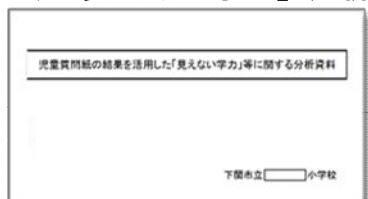
設問番号	R5 質問項目	R3	R4	R5
小33	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	77.2	78.0	79.1
中37		84.8	82.2	82.2
小43	国語の勉強は好きだ。	56.5	59.9	62.7
中47		63.2	62.0	62.4
小51	算数（数学）の勉強は好きだ。	68.6	65.6	62.6
中55		63.2	62.1	62.8
小37	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。	80.0	79.8	81.7
中41		78.7	79.4	73.8

【自己効力感】の観点から ⇒ 課題に対して粘り強く取り組む姿

設問番号	R5 質問項目	R3	R4	R5
4	自分には、よいところがあると思う。	76.6	78.6	83.5
		76.1	81.0	81.8
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。		86.2	95.9
			88.7	89.3
11	人の役に立つ人間になりたい。	96.6	96.6	97.2
		96.4	96.0	93.4

- 【学習意欲】、【自己効力感】ともに全国平均と比較すると、全体的に高い数値となっています。
- 「見えない学力」については、子供たちがよりよく生きていくために必要な力であると認識し、今後も引き続き分析・向上を進めていきます。

(3) 「見えない学力」分析資料の活用



【学習意欲】、【自己効力感】以外の項目

- 生活習慣の観点→生活リズムの改善・計画的に家庭学習に取り組む日常が見えます。
- 学習習慣の観点→学力の定着や授業準備の意識が見えます。
- ★質問紙結果と学力結果のクロス集計を行うことによって、さらに具体的な分析が可能となります。

子供たちの実態把握 → 教育活動の質の向上・学習の効果の最大化